

# 競走型ハードル走が児童の好意的態度に及ぼす影響

～小学6年生を対象にして～

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（保健体育）

坂本 彩華

文部科学省（2017）は、高学年の陸上運動におけるハードル走について、リズムカルにハードルを走り越えたり、記録に挑戦したり、相手と競走したりする楽しさや喜びを味わうことができる運動であると示している。水野（2015）は、陸上系授業は「達成型」に比べ「競走型」が少ないため、「競走型」の充実の必要性を指摘している。そこで、本研究では、競走型ハードル走が児童の好意的態度に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。対象は小学校6年生32名（男子16名、女子16名）であった。児童がハードル走に対して抱きやすい恐怖感や苦手なイメージを払拭し、競走に何度も取り組める環境を工夫した。具体的な手立ては、①ハードルの素材と高さの工夫、②インターバルの長さの工夫、③競走距離の工夫、④競走の仕方の工夫であった。その結果、児童が繰り返し競走に取り組む中で競走の面白さを実感し、ハードル走と体育授業に対する好意的態度が高まったことが明らかとなった。